



ミニ・ディスクロージャー誌

平成21年
9月中間期
営業のご報告



株式会社紀陽ホールディングス

株式会社 紀陽銀行

目 次

- 1 ごあいさつ
- 2 第2次中期経営計画
「～More & Steady～ たゆまぬ前進」
- 4 決算ハイライト
- 10 地域の皆さまとともに
- 16 地域・社会貢献活動への取り組み
- 18 財務諸表
- 20 ネットワーク
- 21 株式情報

株式会社 紀陽ホールディングス

設 立 日 平成18年2月1日
所 在 地 和歌山市本町1丁目35番地
資 本 金 583億50百万円
事 業 の 内 容 銀行等子会社の経営管理、
ならびにそれらに附帯する業務
上場証券取引所 東証・大証第一部

株式会社 紀陽銀行

設 立 日 明治28年5月2日
所 在 地 和歌山市本町1丁目35番地
資 本 金 800億96百万円
店 舗 数 109店（和歌山県70ヵ店、大阪府36ヵ店）
（奈良県2ヵ店、東京都1ヵ店）
従 業 員 数 2,207名（出向者を除く）

※平成21年9月30日現在

※本冊子に記載している計数は、原則として単位未満を切り捨てて表示しています。



KIYO FINANCIAL GROUP

紀陽フィナンシャルグループ



※平成21年9月末現在

※和歌山銀カード株式会社は、平成21年4月1日に株式会社紀陽カードディーシーと合併いたしました。

※紀陽ビジネスファイナンス株式会社は、平成21年5月28日付で特別清算が終結いたしました。



取締役社長

片山博臣

皆さまには平素より紀陽銀行をはじめ紀陽フィナンシャルグループをお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

このたび「平成21年9月中間期 ミニ・ディスクロージャー誌」を作成いたしました。平成21年9月中間期決算の概要や第2次中期経営計画の進捗状況、また、最近の取り組み状況などをまとめておりますので、ご一読いただき、ご参考にしていただければ幸いに存じます。

平成21年4月より新たに第2次中期経営計画がスタートいたしました。これまで同様「お客さまから選ばれ続ける銀行」となるため、お客さまのご満足を第一とする心を大切にし、お客さまの良き相談相手として知恵を絞り、汗をかき行動する銀行を目指してまいります。そのために、第2次中期経営計画においては、第1次中期経営計画期間中に構築した営業体制を活用し、お客さまへの接点強化とお取引先数増加による着実な量的拡大を図るとともに、営業基盤強化に基づく質的成長へ転換し、収益力を一層強化してまいります。

昨年よりの景気後退の影響が当社の地盤とする和歌山県・大阪府においても引き続き残っており、企業の活動は一部には持ち直しの傾向が見えつつあるものの、先行きの不透明感変わらず、個人消費についても低迷した状況が続いております。

このような状況ではありましたが、当社の平成21年9月中間期業績は、金融市場の安定化とともに、リスク管理の一層の強化、債券関係損益の改善により、計画を上回る利益を確保することができました。

これからも皆さまからの信頼を裏切ることのないように、グループ全体の法令等遵守態勢や経営管理態勢の更なる強化を図るとともに、地域社会に生きる企業として、「地域とともに歩む」という気持ちを忘れることなく、一層の地域経済の活性化に貢献してまいります。

皆さまには、引き続き変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成21年12月

第2次中期経営計画「～More & Steady～ たゆまぬ前進」

平成21年4月より新たに第2次中期経営計画「～More & Steady～ たゆまぬ前進」をスタートいたしました。これまで構築した営業体制を活用し、お客さまとの接点強化とお取引先数の増加による着実な成長を目指すとともに、営業基盤強化に基づく質的成長へ転換し、収益力を一層強化してまいります。

紀陽銀行の目指す銀行像

「お客さまから選ばれ続ける銀行」

お客さまの満足を第一とする心を大切にし、お客さまの良き相談相手として知恵を絞り、汗をかき行動する銀行を目指します。

第2次中期経営計画「～More & Steady～ たゆまぬ前進」

「営業基盤強化に基づく質的成長へ転換」

主要戦略

顧客接点強化と
取引先数増加による着実な成長

経営管理態勢の強化

公的資金返済に向けた
態勢整備の完了

地元エリアにおける競争優位の発揮

- 和歌山県内および堺・大阪府南部において経営資源を最大限に活用。
- お取引先数の増加を強く意識した営業推進を行う。

多様な顧客接点を生むための 効率的な営業体制の構築

- お客さまの満足度を最大限に高めるための営業体制を実現。

安定成長を支える組織態勢の強化

- リスク管理態勢の強化とコンプライアンスの徹底を図る。

第2次中期経営計画の実績

第2次中期経営計画がスタートし、これまで同様お客さまから選ばれ続ける銀行となるため、お客さまにご満足いただけるサービスや商品の提供に取り組んでまいりました。これらの取り組みにより、平成21年9月末までの状況は以下のとおりとなりました。

紀陽銀行単体

目標項目		平成20年9月期 実績	平成21年9月期		第2次中期経営計画 平成24年3月期 計画
			実績	前年同期比	
規 模	預金等残高(譲渡性預金含む)(末残)	3兆2,086億円	3兆2,686億円	600億円	3兆4,500億円以上
	貸出金残高(末残)	2兆2,980億円	2兆3,764億円	784億円	2兆6,000億円以上
	うちローン残高	7,690億円	8,333億円	643億円	9,300億円以上
	投資信託残高(末残)	1,605億円	1,384億円	△221億円	1,650億円以上
収益性	コア業務純益	113億円	92億円	△21億円	年間 240億円以上
	コア業務純益ROA(コア業務純益/総資産)	0.66%	0.52%	△0.14%	0.66%以上
効率性	OHR(経費/業務粗利益)	74.31%	63.38%	△10.93%	60%台前半
健全性	不良債権比率	4.76%	3.71%	△1.05%	3%台

紀陽ホールディングス連結

目標項目		平成20年9月期 実績	平成21年9月期		第2次中期経営計画 平成24年3月期 計画
			実績	前年同期比	
収益性	当期(中間)純利益	24億円	21億円	△3億円	年間 120億円以上
健全性	自己資本比率	9.38%	11.08%	1.70%	11%以上
	TierI比率	6.58%	8.28%	1.70%	8%以上



コア業務純益とは

預金、貸出金、有価証券などの利息収支である「資金利益」、各種手数料などの収支である「役務取引等利益」、外国為替、債券の売買損益などの収支である「その他業務利益」を合計した「業務粗利益」から「経費」と「一般貸倒引当金繰入額」を差し引いたものが「業務純益」です。さらに、「業務純益」から一般貸倒引当金繰入額、債券関係損益の影響を控除したものが「コア業務純益」となります。銀行の本来業務での収益を表す指標です。

OHRとは

業務粗利益に占める経費の割合を表し、効率性を示す指標のひとつです。数値が低い方が、効率が良いとされています。

自己資本比率・TierI比率とは

自己資本比率は、信用リスクアセット(総資産のうち貸倒の可能性のある資産)やオペレーショナル・リスク相当額(事務ミスなどから生じる損失に対して備えるべき額など)に対する資本金などの自己資本の割合を示します。

TierIは、資本金や利益剰余金など自己資本の中核を占めるもので、リスクアセットに対する割合は、健全性を示す指標のひとつです。

繰延税金資産とは

企業会計上の利益と課税所得が一致しない場合に生じるもので、企業会計上、将来負担すべき税負担を当期に前払いしたと考え資産計上するものです。

■紀陽ホールディングス【連結】

経常利益は39億円、中間純利益は21億円となりました。

平成21年9月期の紀陽ホールディングス連結の業績は、グループの中心である紀陽銀行における本業部分において貸出金利息や預かり資産関連等の手数料収入が減少したものの、債券関係損益の改善などにより経常利益が39億円、中間純利益が21億円となりました。

業績予想

当社及び当社の子会社である紀陽銀行は、平成21年4月より第2次中期経営計画をスタートし、第1次中期経営計画で構築した営業体制をさらに定着させ、お客さまとの接点をより強化し、地元エリアでの競争優位を発揮してまいります。

計画を着実に推し進め、新たにお取引引きいただくお客さまを増やし、これまでのお客さまとの取引をより深めることにより、貸出金や預金等について量的な拡大をはかるとともに、さらに資産の質的向上を追求することで、収益力を一層強化してまいりたいと考えております。

資金利益については、計画を遂行することにより堅調に推移するものと考えており、役務取引等利益についても、金融市場の安定化が進み、投資環境が改善することにより、預かり資産販売の回復基調が持続できるものと考えております。

地域の景況感是不透明な状況にありますが、平成22年3月期の通期連結業績予想は当期純利益56億円を見込んでおります。

■紀陽銀行【単体】

単位:億円

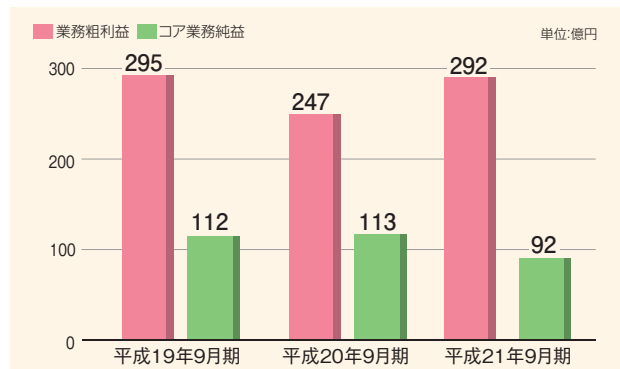
	平成20年9月期	平成21年9月期	前年同期比
業務粗利益	247	292	45
資金利益	265	255	△ 10
役務取引等利益	35	21	△ 14
その他業務利益	△ 54	15	69
経費(△)	183	185	2
一般貸倒引当金繰入額(△)	—	9	9
業務純益	63	97	34
コア業務純益	113	92	△ 21
臨時損益	△ 61	△ 50	11
うち不良債権処理額(△)	43	29	△ 14
経常利益	2	47	45
特別損益	18	6	△ 12
うち償却債権取立益	7	6	△ 1
うち貸倒引当金戻入益	15	—	△ 15
中間純利益	31	29	△ 2

業務粗利益・コア業務純益

再構築された営業体制の強化をすすめ、地域のお客さまに密着した営業に取り組んでまいりましたが、昨年以降の政策金利引き下げの影響により、資金利益はやや減少いたしました。

しかしながら、金融市場の回復等により、当期の業務粗利益は前年同期比45億円増加し、292億円となりました。

なお、コア業務純益は前年同期比21億円減少し、92億円となりました。

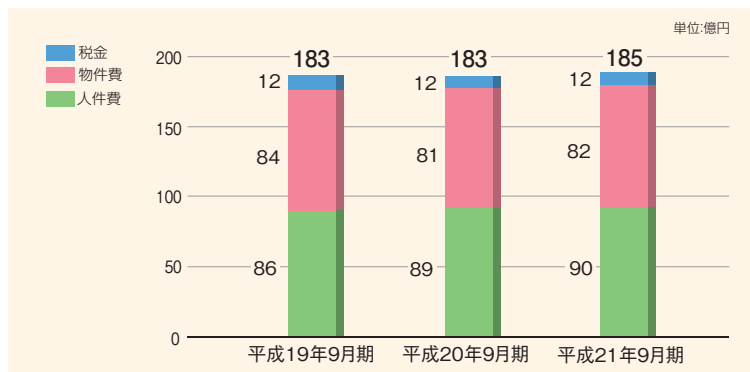


業務粗利益とは

預金・貸出金業務や有価証券運用などによる利息収支である「資金利益」、投資信託販売手数料など各種手数料の収支である「役務取引等利益」、債券や外国為替の売買損益などの収支である「その他業務利益」の合計。

経費

業務の見直し等経費削減に努めましたが、新店舗投資の償却負担や人件費増により、経費全体では前年同期比2億円の増加となりました。



与信コスト

世界的な景気低迷の影響をうけ、企業の景況感は引き続き低調に推移しておりますが、事業再生への積極的取り組みや与信ポートフォリオの改善に努力してきた結果、与信コスト総額は32億円となりました。

※与信コスト総額＝一般貸倒引当金繰入額＋不良債権処理額－償却債権取立益

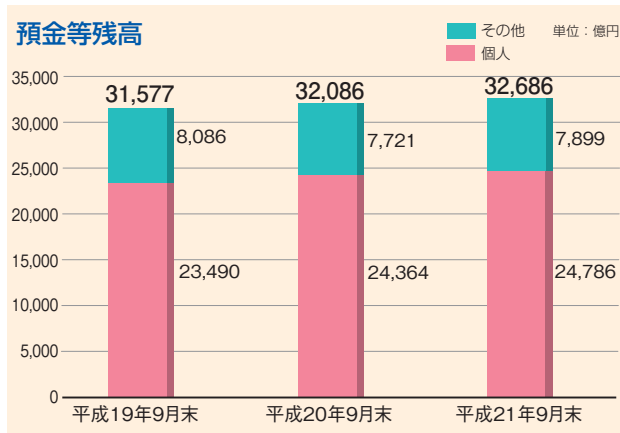
■預金等および預かり資産の状況

お客さまの多様なニーズにお応えするため、営業人員の増加や個人のお客さま専用店舗の設置をすすめてまいりました。預金等の獲得に積極的に取り組んだ結果、残高は順調に推移いたしました。

預金等

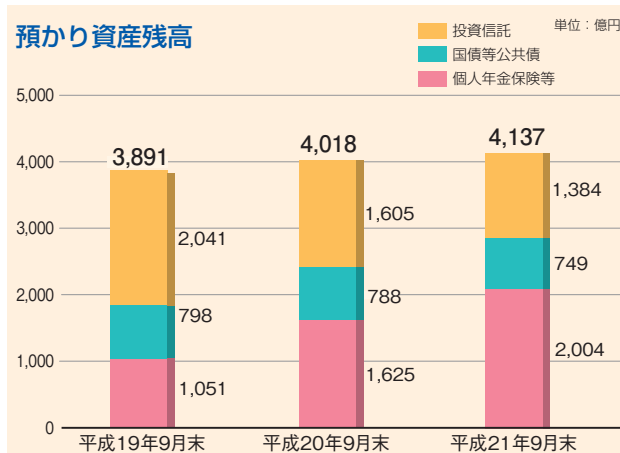
平成21年9月末の預金等残高は、前年同期比600億円増加の3兆2,686億円となりました。

うち、個人預金残高は、前年同期比422億円増加し、2兆4,786億円となりました。



預かり資産

投資環境は回復傾向にあり、預かり資産の販売について積極的に取り組んだ結果、預かり資産残高は、4,137億円となりました。



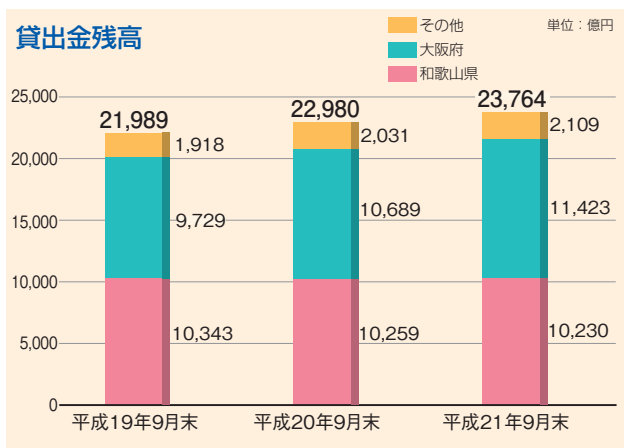
※個人年金保険等は販売累計額

貸出金の状況

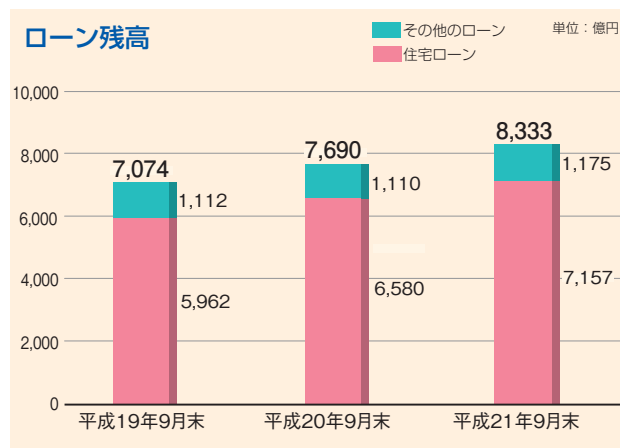
これまで構築してきた営業体制や営業人員を活用し、より地域に密着した営業を行ってまいりました。その結果、企業をとりまく経営環境は依然として厳しいものの、貸出金残高は前年同期比784億円の増加となりました。

住宅ローンをはじめ、個人のお客さま向けのローンの取扱いも積極的におこなった結果、消費者ローン残高は前年同期比643億円の増加となりました。

貸出金残高



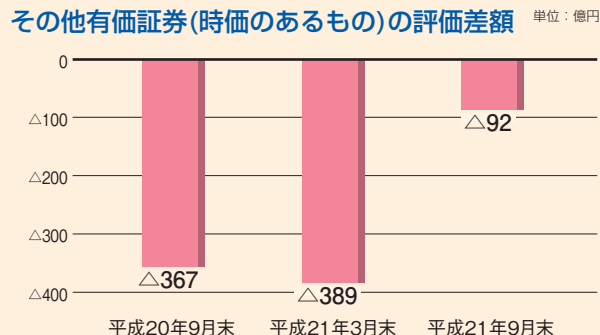
ローン残高



有価証券の状況

金融市場の混乱は、落ちつきを見せ始めてきており、その他有価証券の評価差額は大きく改善いたしました。

その他有価証券(時価のあるもの)の評価差額



(注)右表には、変動利付国債の保有目的区分を変更したときに発生した、その他有価証券評価差額を含めて表示しております。

決算ハイライト～自己資本比率～

自己資本比率

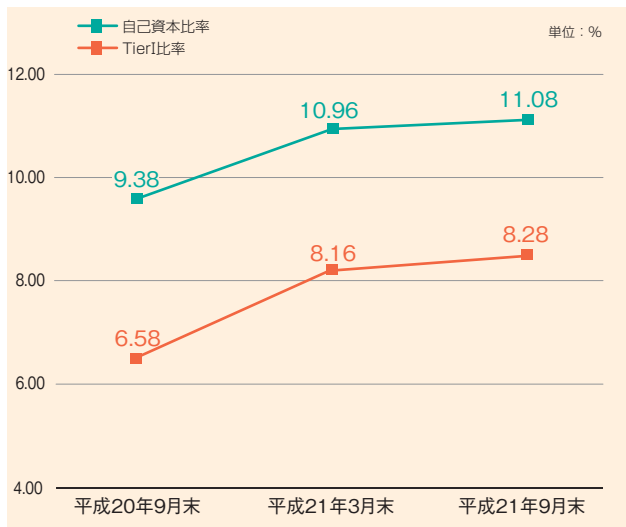
平成21年9月末の紀陽ホールディングス連結の自己資本額は、前期末比34億円増加し、1,974億円となりました。また、子銀行の紀陽銀行で、住宅ローン残高が増加したことなどにより、リスクアセットは前期末比104億円増加しました。この結果、紀陽ホールディングス連結自己資本比率(第二基準)は、前期末比0.12%増加の11.08%となりました。また、紀陽銀行単体の自己資本比率(国内基準)も、前期末比0.14%増加の10.57%となりました。

※第二基準とは、海外営業拠点を持たない銀行持株会社の基準です。国内基準とは、海外営業拠点を有しない銀行の基準です。

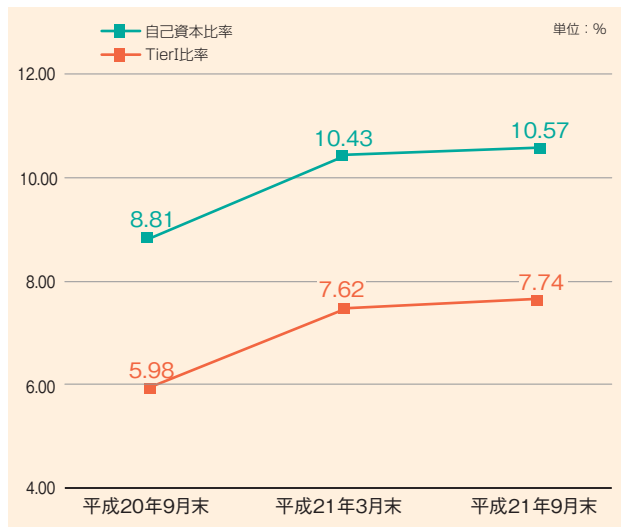
	自己資本比率	自己資本額			リスクアセット
			TierI	TierII	
紀陽ホールディングス 連結	11.08% (0.12%)	1,974億円 (+34億円)	1,475億円 (+30億円)	499億円 (+1億円)	17,810億円 (+104億円)
紀陽銀行 単体	10.57% (0.14%)	1,872億円 (+35億円)	1,371億円 (+30億円)	501億円 (+3億円)	17,704億円 (+101億円)

※()内は平成21年3月末対比

紀陽ホールディングス連結



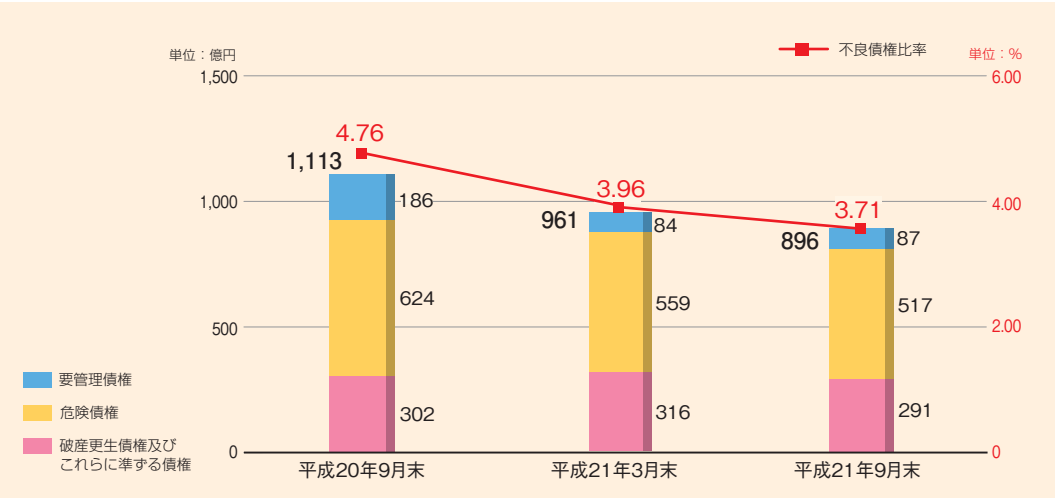
紀陽銀行単体



不良債権（金融再生法開示債権）（紀陽銀行単体）

事業再生、不良債権の最終処理、経営改善支援による債務者区分のランクアップなどにより不良債権額削減に努めた結果、不良債権残高は前期末比65億円減少し、896億円となりました。

また、平成21年9月末の不良債権比率は3.71%となりました。



不良債権の保全状況

平成21年9月末の不良債権総額896億円のうち90.7%は担保や引当金などで保全されております。

	債権額 ^(※1)	保全額			保全率
			担保・保証等	引当額	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権 ^(※2)	291	291	269	21	100.0%
危険債権 ^(※3)	517	468	357	111	90.5%
要管理債権 ^(※4)	87	53	37	16	61.3%
合計	896	813	663	149	90.7%

(※1) 貸出金、支払承諾見返、外国為替、銀行保証付私募債、貸付有価証券、仮払金等の合計

(※2) 破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

(※3) 債務者が経営破綻の状態に至っていないが、財務状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性の高い債権

(※4) 3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権

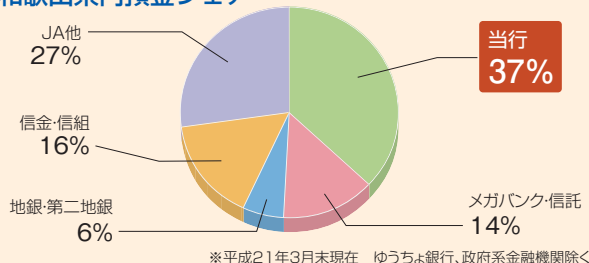
地域の皆さまとともに～預金、貸出金の状況～（紀陽銀行単体）

預金・貸出金の和歌山県内シェア

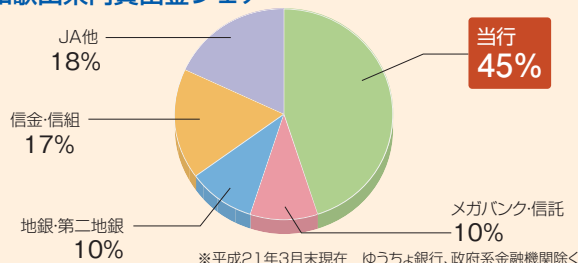
第1次中期経営計画による積極的な店舗展開により、現在では和歌山県下に70店舗、大阪府下に36店舗を配置し、両府県を主要な営業基盤としています。また、両府県に隣接する奈良県にも2店舗を出店しております。和歌山県では預金、貸出金ともにトップシェアをいただいております。これからも地域のリーディングバンクとして、地域の発展に向けて果たすべき役割は重要なものであると認識しております。

また、大阪府においても預金・貸出金とも順調に増加しており、有力な地元銀行として認識していただけるよう営業体制の強化をすすめてまいります。

和歌山県内預金シェア



和歌山県内貸出金シェア



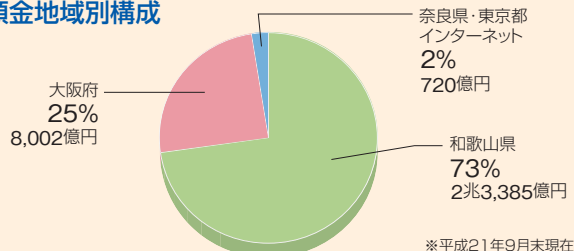
預金・貸出金の地域別構成

営業人員及び営業体制の強化により、多くのお客さまによりきめ細やかなサービスを提供してまいります。地域の皆さまの貯蓄、資産運用に関するニーズにお応えするとともに、企業や個人事業主の皆さまの資金需要に対し、円滑な資金のご提供に努めております。

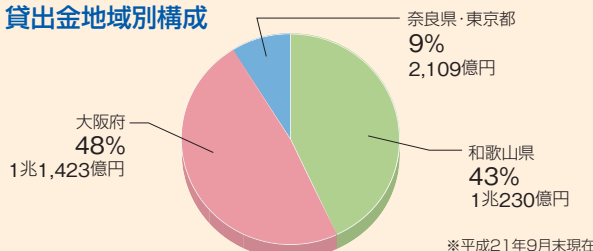
平成21年9月末の総預金残高（譲渡性預金を除く）3兆2,109億円のうち、98%の3兆1,387億円を和歌山県、大阪府の店舗にてお預かりしております。

貸出金につきましても、和歌山県、大阪府の店舗での貸出金残高は2兆1,653億円となっており、総貸出金残高の91%を占めております。

預金地域別構成



貸出金地域別構成



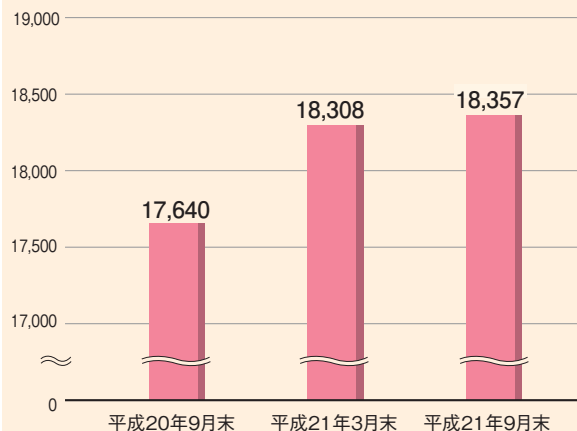
中小企業・個人のお客さまへの貸出の状況

営業拠点の増加や営業人員の増強、さらにお客さまとの接点強化により、リレーションシップの強化に努め、様々な経営課題や資金ニーズに取り組ませていただいた結果、中小企業等貸出金残高は、引き続き増加いたしました。

平成21年9月末の中小企業等貸出金残高は、前年同月末比717億円増加し、1兆8,357億円となりました。

中小企業等貸出金残高の推移

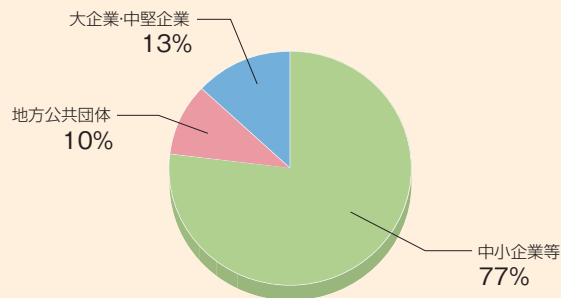
単位：億円



※中小企業等貸出金とは、資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、サービス業、小売業および飲食店は5千万円)以下の会社または常用する従業員が300人(ただし、卸売業およびサービス業は100人、小売業および飲食店は50人)以下の会社および個人への貸出金

貸出金2兆3,764億円のうち、77%にあたる1兆8,357億円を地元の中小企業、個人のお客さまにご利用いただいております。

中小企業・個人のお客さまへの融資の状況



※平成21年9月末現在

お客さまの利便性をより向上させた「紀陽ONE da FULLカード」(キヨー ワンダフルカード)



ゴールド

クラシック

平成21年5月より、1枚のカードに生体認証機能付きICキャッシュカード機能、クレジットカード(VISA)機能、後払い電子マネー「iD™」を搭載する一体型カード『紀陽 ONE da FULL カード(キヨーワンダフルカード)』の取扱いを開始いたしました。お客さまにご満足いただけるよう、日常生活のさまざまなシーンで役に立つ機能を豊富に取り揃えております。

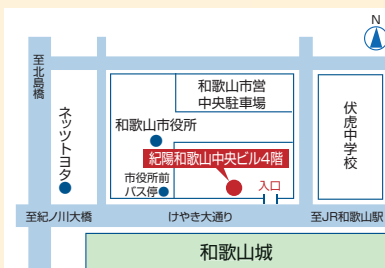
不正引出被害を防止するため、生体認証ICカード

偽造・盗難キャッシュカードによる不正引き出し被害を防止するため、「指静脈」方式による「生体認証ICキャッシュカード」をお取扱いしております。

ATMでご出金される場合などに、一人ひとり異なる「指静脈」パターンでご本人を確認することで、より厳格な本人認証が可能となります。



家計に関するご相談にお応えする「紀陽 お城の前の相談室」



和歌山市役所東隣の紀陽和歌山中央ビル4階にある「紀陽 お城の前の相談室」は、家計に関することについてご相談いただけます。「資産運用はどうしたらいいの?」「年金はどうなるの?」「相続対策はどうしたらいいの?」など、日常の皆さまの疑問にお答えします。

お仕事帰りや休日にゆっくり相談いただけます。

■平日:午前11時～午後7時 ■土曜日・日曜日:午前11時～午後5時

※祝日及び1月1日～1月3日、5月3日～5月5日、12月31日は休業とさせていただきます。

※祝日が日曜日の場合は、振替休日の方を休業とさせていただきます。

ハローサービスセンター



お客さまのお役に立つ情報を発信するコールセンターです。さまざまな商品・サービスやキャンペーン、年金相談会などのご案内を行っております。

また、お客さまからのご質問やテレホンバンキング(会員制)、無担保ローンの受付も行っております。

- 商品・サービスのお問い合わせ 0120(037) 389 (9:00～17:00 銀行窓口休業日を除く)
- テレホンバンキングの受付(会員の方のみ) 0120(237) 300 (9:00～19:00 銀行窓口休業日を除く)
- 無担保ローンの受付 0120(600) 964 (7:00～23:00 年末・年始の銀行窓口休業日を除く)

インターネット支店 アドレス <http://www.kiyobank.co.jp/net/>



インターネット支店を紀陽銀行ホームページ上に開設しております。

口座の開設は郵送によるお取扱いとなりますが、窓口足を運んでいただくことなく、パソコンを通じて定期預金のお申込を年中無休で受け付けております。

インターネット支店専用定期預金をご用意し、紀陽銀行の営業エリア内外からご預金をお預かりしております。また、セキュリティ面では、ワンタイムパスワード*を採用する等なりすまし防止対策を強化しております。

※お客さまの携帯画面上に表示された一度限りのパスワードを利用して、インターネットバンキングの本人認証を行います。万が一パスワードが不正行為により盗まれたとしても、1分後にはそのパスワードは無効となることから「本人なりすまし」による不正取引など、金融犯罪への対策として、きわめて有効な手段となります。

■インターネット支店の概要

支店名	インターネット支店
ご利用いただける方	日本国内に居住する満20歳以上の個人のお客さま (但し、事業性個人や屋号付個人のお客さまはご利用いただけません)
営業日・営業時間	インターネットからのアクセスは原則365日、24時間可能です。
ご利用手段	ブラウザ搭載のパソコン。振込、残高・明細照会等は携帯電話からも可能。
お申込方法	口座開設は郵送にておこないます。 定期預金へのお預け入れはパソコンを通じておこないます。

キャッシュカード	ICキャッシュカードを発行いたします。(通帳は発行いたしません) 紀陽銀行のATMやローソン・セブン銀行・ゆうちょ銀行のATM または提携金融機関のATMにてご利用いただけます。
取扱商品	①インターネット支店専用定期預金 預入金額:10万円以上(1円単位) 期 間:1年、3年、5年 ②インターネット支店専用普通預金 公共料金や税金、クレジットカード等の決済機能はございません。 また給与や年金等のお受け取り口座にはご指定いただくことはできません。

各種ローン

お客さまのライフステージにおける様々なニーズにお応えするため、カードローン、マイカーローン、学資ローン、住宅ローンなど各種ローン商品をご用意し、ご相談をお待ちしております。

また、11ヵ所の住宅ローンセンターでは専門のスタッフが住宅ローンのご相談やお申込を受け付けており、4ヵ所は日曜日も営業しております。

■住宅ローンセンター

日曜オープン 印は日曜日も営業(午前10時から午後4時まで)しております。

日曜オープン	●紀陽住宅ローンセンター(本店南館1階)	073(426)7155
日曜オープン	●紀陽二色の浜住宅ローンセンター	072(433)4741
日曜オープン	●紀陽東岸和田住宅ローンセンター(東岸和田支店2階)	072(428)0540
	●紀陽光明池住宅ローンセンター(榎屋ビル3階)	0725(56)0221
	●紀陽狭山住宅ローンセンター(狭山支店2階)	072(368)7200
日曜オープン	●紀陽堺住宅ローンセンター(紀陽堺ビル3階)	072(222)9322
	●紀陽藤井寺住宅ローンセンター(藤井寺フク生生命ビル5階)	072(937)5601
	●紀陽西田辺住宅ローンセンター(帝塚山クレバービル2階)	06(6694)9801
	●紀陽堂島住宅ローンセンター(堂島グランドビル5階)	06(6343)1251
	●紀陽鶴見住宅ローンセンター(尾本ビル5階)	06(6934)9600
	●紀陽大和高田住宅ローンセンター(岡本ビル3階)	0745(53)3541

(平成21年9月30日現在)

ATMネットワークの充実

全国のローソン、セブン-イレブンなどに設置されている「ローソンATM6,607台(県内108台)」、「セブン銀行ATM14,181台(県内41台)」でも紀陽銀行のキャッシュカードがご利用いただけます。

(平成21年9月30日現在)

紀陽ハートフルプラザ

ご預金や資産運用のご相談に関する利便性の向上を目指し、個人のお客さま専用の店舗として設置しております。和歌山県内では、和歌山市内に2か店と橋本市内に1か店、大阪府下では堺市と泉大津市に各1か店、合計5か店出店しております。今後も、お客さまのニーズにお応えできるようサービスの拡充を図ってまいります。

地域の皆さまとともに～法人・事業主のお客さまに～

当社グループでは、経営課題解決に向けたお手伝いや成長支援、また地域のお客さまの利便性向上に向けた地域密着型金融の推進に取り組んでいます。

独自のノウハウに加え外部の専門家（弁護士、税理士、M&A専門業者等）や公的機関（国、府県、政府関連機関等）とのネットワーク活用により、地元企業の成長支援や経営課題解決に、より強力に取り組む体制を構築しています。

事業承継サポート

外部提携機関との連携による自社株対策提案やM&Aサポートを通じて、お客さまが抱える事業承継問題の解決に積極的に対応しております。

お客さまへの支援サービスの一環として今年2月に堺市、9月に和歌山市にて外部機関と連携した「事業承継セミナー」を開催致しました。



産学官連携

地域経済の活性化と地場産業振興を目的として和歌山県や大学、高専等と産学官連携協定を締結しております。



昨年は12月に国立和歌山工業高等専門学校にて、お客さまと学生との交流を目的に「企業合同説明会」を開催し、県内企業を中心に38社が参加致しました。

また、今年3月には、お客さまの新規事業への進出サポートのため、和歌山県立医科大学と連携した「異業種交流会」を開催致しました。

展示商談会

お客さまの販路拡大やコスト削減等の経営ニーズに対応するため、ビジネスマッチング業務に積極的に取り組んでいます。

昨年10月にはご要望のあった34社のお客さまが、東京で開催された商談会に合同出展いたしました。

また、和歌山県との包括協定により、アジア最大級の食品・飲料展示会「FOODEX JAPAN 2009」の和歌山県ブースへ出展誘致を行いました。



確定拠出年金 (401K)

企業の退職金・年金制度は「適格退職年金制度の廃止」（平成24年3月まで）等大きく環境が変化しています。こうした中で、お取引先が抱えている自社の「退職金・年金問題」を解決するため退職金・年金コンサルティングを実施しております。コンサルティングの内容は、現状分析から、退職給付制度の問題点を抽出し、各社の実状に応じた新たな退職金・年金制度構築・導入までを一環してサポートしております。



経営改善のお手伝い

経済環境の低迷が続く中、お客さまとのコミュニケーションをより深めることにより、財務内容の改善や適正な事業運営に向けた経営改善計画の策定についてお手伝いしております。

中小企業再生支援協議会、RCC（整理回収機構）などの外部機関や政府系金融機関などとも連携し、紀陽銀行も出資する再生ファンド「くろしお企業支援ファンド」の利用など、お客さまに応じた最適な手法を選びながら、お客さまの経営改善や抜本的な再生に取り組んでおります。

こうした取り組みを通じ、平成21年9月期は10先の債務者区分がランクアップ^(※)いたしました。

※ご融資先を財務内容などにより正常先、要注意先、破綻懸念先、実質破綻先、破綻先の5段階に区分し、経営改善や事業再生などにより上位のランクに引き上げること

経営サポート室

経営内容の改善に取り組まれているお客さまの改善計画策定や財務内容の改善に向けたお手伝いをするため、経営サポート室を設置しております。

お客さまにふさわしい改善方法をご提案できるよう、営業店と一体となって取り組んでおります。



円滑な資金のご提供

中小企業や個人事業主のお客さまに対して、事業融資にお応えする専用窓口として「ビジネスサポートセンター」を和歌山県及び大阪府の4ヵ所（本店内、田辺、岸和田、堺）に設置し、専門スタッフが電話やFAXで融資のご相談を受け付けております。

お客さまの資金需要に的確かつスピーディーに対応し、事業に即した資金を円滑にご提供し、様々なご相談にお応えするため、営業態勢の強化に努め、融資手法の多様化に取り組んでいます。

地域応援団〈プラス〉

- ・対象は業歴3年以上の法人、個人事業主
- ・最高3,000万円(個人事業主の方は1,000万円)
- ・担保は原則不要
- ・第三者保証人不要

〈キヨー〉 ビジネス・クレジット

- ・対象は業歴1年以上の法人、個人事業主
- ・最高500万円(極度)
- ・担保不要
- ・保証人不要(法人は代表者の方のみの保証)
- ・保証会社の保証

■ビジネスサポートセンター

● 紀陽ビジネスサポートセンター(本店自動サービスコーナー2階)	073(426)7117
● 紀陽田辺ビジネスサポートセンター(田辺支店北隣り)	0120(331)209
● 紀陽岸和田ビジネスサポートセンター(JR東岸和田駅西側)	0120(221)603
● 紀陽堺ビジネスサポートセンター(紀陽堺ビル4階)	0120(191)560

地域・社会貢献活動への取り組み

環境保全・美化活動

和歌山県「企業の森」事業

森林保全活動を通じ地域の環境保護に貢献するため、役職員が伐採後の森林への広葉樹の植樹や下草刈り活動を行っています。

平成18年の取り組み開始以降、これまでに約3,000本の植樹を実施しました。また、今年2月には「日本の森を守る地方銀行有志の会」に参画し、森林保全活動を通じて地域の環境保護に貢献することを目指しております



小さな親切運動

紀陽銀行「小さな親切の会」では、各地域の清掃活動や地元の植樹祭に参加するなど環境美化や地元の皆さまのお役に立てるよう取り組んでおります。

紀陽文化財団

地域の皆さまに音楽や美術などに接していただく機会をご提供するため、クラシックコンサートの開催や和歌山県立近代美術館・博物館への無料ご招待を実施しております。



地域の安全のために

◆全営業店へのAED設置

地域の皆さまに万一救命措置が必要となった場合に備えて、全営業店のATMコーナーや住宅ローンセンターなど120カ所にAED（自動体外式除細動器）を設置しております。本年度入行の総合職全員に対して、AEDライセンス取得にむけた講習会を実施いたしました。



◆「振り込め詐欺防止装置の設置」

増加している振り込め詐欺対策として、携帯電話感受装置を13カ所の店舗外ATMコーナーに設置いたしました。振り込め詐欺は、ATMコーナーに誘導する手口が多く、ATMコーナーでの携帯電話の使用を制限することにより、少しでもお客さまの被害防止になればと考えております。また、お客さまへのお声かけについても積極的に行っております。



◆「子ども110番」

地域の子どもたちを狙った犯罪を未然に防止するため、和歌山市内の住宅地に立地し、通学路に近い11ヵ店で「子ども110番」活動への取り組みを行っています。

地域行事への参加・各種大会への協賛

「紀州おどり」への参加や「和歌浦ベイマラソン With JAZZ」の運営ボランティア派遣、また「和歌山県綱引選手権大会」や少年野球、卓球大会などにも協賛しております。各種行事の参加を通じて、地域社会の一員として、皆さまとの交流を深めております。



紀陽ホールディングス（連結）

第5期中 中間連結貸借対照表

（平成21年9月30日現在）

単位:百万円

科 目	金 額	科 目	金 額
（資産の部）		（負債の部）	
現金預け金	54,188	預金	3,201,509
コールローン及び買入手形	49,055	譲渡性預金	49,664
債券貸借取引支払保証金	30,817	債券貸借取引受入担保金	28,312
買入金銭債権	4,692	借入金	29,484
商品有価証券	5,263	外国為替	27
有価証券	878,185	社債	13,800
貸出金	2,370,092	その他負債	27,509
外国為替	2,124	退職給付引当金	89
その他資産	49,878	役員退職慰労引当金	40
有形固定資産	34,270	睡眠預金払戻損失引当金	510
無形固定資産	19,201	偶発損失引当金	302
繰延税金資産	37,298	支払承諾	19,763
支払承諾見返	19,763	負債の部合計	3,371,015
貸倒引当金	△ 33,004	（純資産の部）	
		資本金	58,350
		資本剰余金	64,630
		利益剰余金	33,410
		自己株式	△ 132
		株主資本合計	156,258
		その他有価証券評価差額金	△ 7,383
		繰延ヘッジ損益	△ 2
		評価・換算差額等合計	△ 7,385
		少数株主持分	1,941
		純資産の部合計	150,814
資産の部合計	3,521,829	負債及び純資産の部合計	3,521,829

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■連結範囲および持分法の適用に関する事項

連結子会社は7社、持分法適用会社は0社であります。

（注）和歌山銀カード株式会社は、平成21年4月1日に株式会社紀陽カードディーシーが吸収合併しております。

（注）紀陽ビジネスファイナンス株式会社は、平成21年5月28日付で特別清算が終結いたしました。

第5期中 中間連結損益計算書

（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）

単位:百万円

科 目	金 額
経常収益	42,739
資金運用収益	30,860
（うち貸出金利息）	(24,444)
（うち有価証券利息配当金）	(6,260)
役務取引等収益	5,503
その他業務収益	4,663
その他経常収益	1,711
経常費用	38,746
資金調達費用	5,175
（うち預金利息）	(4,515)
役務取引等費用	1,966
その他業務費用	2,629
営業経費	20,527
その他経常費用	8,447
経常利益	3,992
特別利益	825
特別損失	27
税金等調整前中間純利益	4,790
法人税、住民税及び事業税	474
法人税等調整額	2,092
法人税等合計	2,566
少数株主利益	77
中間純利益	2,146

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

- 連結子会社
- ・株式会社紀陽銀行
 - ・紀陽情報システム株式会社
 - ・紀陽ビジネスサービス株式会社
 - ・阪和信用保証株式会社
 - ・紀陽リース・キャピタル株式会社
 - ・株式会社紀陽カード
 - ・株式会社紀陽カードディーシー

役員一覧（株式会社 紀陽ホールディングス）

（平成21年9月30日現在）

取締役社長（代表取締役）	片 山 博 臣	取締役	阪 本 彰 央	監査役（非常勤・社外監査役）	松 川 雅 典
専務取締役	米 坂 享	取締役（社外取締役）	水 野 八 朗	監査役（非常勤・社外監査役）	増 尾 穰
常務取締役	泉 清 映	監査役（常勤）	玉 井 享	監査役（非常勤・社外監査役）	大 平 勝 之
取締役	成 田 幸 夫	監査役（常勤）	樋 口 勝 二		

紀陽銀行 (単体)

第200期中 中間貸借対照表

(平成21年9月30日現在)

単位:百万円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	53,939	預金	3,210,954
コールローン	49,055	譲渡性預金	57,664
債券貸借取引支払保証金	30,817	債券貸借取引受入担保金	28,312
買入金銭債権	4,692	借入金	29,484
商品有価証券	5,263	外国為替	27
有価証券	880,046	社債	13,800
貸出金	2,376,419	その他負債	17,109
外国為替	2,124	退職給付引当金	62
その他資産	36,671	役員退職慰労引当金	40
有形固定資産	34,390	睡眠預金払戻損失引当金	510
無形固定資産	8,525	偶発損失引当金	302
繰延税金資産	35,492	再評価に係る繰延税金負債	222
支払承諾見返	19,753	支払承諾	19,753
貸倒引当金	△ 29,349	負債の部合計	3,378,246
		(純資産の部)	
		資本金	80,096
		資本剰余金	32,357
		資本準備金	259
		その他資本剰余金	32,097
		利益剰余金	24,722
		利益準備金	1,010
		その他利益剰余金	23,711
		繰越利益剰余金	23,711
		株主資本合計	137,176
		その他有価証券評価差額金	△ 7,906
		繰延ヘッジ損益	△ 2
		土地再評価差額金	328
		評価・換算差額等合計	△ 7,580
		純資産の部合計	129,595
資産の部合計	3,507,842	負債及び純資産の部合計	3,507,842

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第200期中 中間損益計算書

(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)

単位:百万円

科 目	金 額
経常収益	39,116
資金運用収益	30,716
(うち貸出金利息)	(24,318)
(うち有価証券利息配当金)	(6,242)
役務取引等収益	4,431
その他業務収益	2,247
その他経常収益	1,722
経常費用	34,357
資金調達費用	5,202
(うち預金利息)	(4,519)
役務取引等費用	2,244
その他業務費用	685
営業経費	18,782
その他経常費用	7,441
経常利益	4,759
特別利益	633
特別損失	27
税引前中間純利益	5,366
法人税、住民税及び事業税	29
法人税等調整額	2,355
法人税等合計	2,385
中間純利益	2,981

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

役員一覧 (株式会社 紀陽銀行)

(平成21年9月30日現在)

取締役頭取(代表取締役)	片 山 博 臣	取締役	上 野 隆 司	監査役(常勤)	玉 井 享
専務取締役	米 坂 享	取締役	森 川 保 彦	監査役(常勤)	樋 口 勝 二
常務取締役	雑 賀 均	取締役	成 田 幸 夫	監査役(非常勤・社外監査役)	松 川 雅 典
常務取締役	泉 清 映	取締役	北 山 隆 一	監査役(非常勤・社外監査役)	増 尾 穰
常務取締役	松 岡 靖 之			監査役(非常勤・社外監査役)	大 平 勝 之

営業エリア・店舗ネットワーク

紀陽銀行は、主要営業エリアである和歌山県、大阪府を中心に109店舗を設置し、両府県にまたがる店舗ネットワークを展開しております。

また、セブン銀行、ローソンとの提携により、全国のセブンイレブンやローソンに設置されたATMで紀陽銀行のキャッシュカードがご利用いただけます。

	店舗数	店舗外ATM
和歌山県	70	119
大阪府	36	30
奈良県	2	1
東京都、三重県	1	1
合計	109	151

(インターネット支店含む)

※このほか、資産運用に関するコンサルティングデスク「紀陽 お城の前の相談室」、インスタブランチ「iプラザ イズミヤ和歌山店」、外貨両替専門の「関西国際空港出張所」、住宅ローンセンター(11カ所)、ビジネスサポートセンター(4カ所)を開設しております。



●発行済株式総数

普通株式	739,976,454株
第一種優先株式	223,000株
第二種優先株式	4,413,500株
第4回第一種優先株式	45,000,000株

●株主総数

普通株式	27,193名
第一種優先株式	4名
第二種優先株式	525名
第4回第一種優先株式	1名(株式会社整理回収機構)

●配当方針

利益配分につきましては、銀行持株会社の公共性に鑑み、経営の健全性を確保するための適正な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を実現することを基本方針としています。

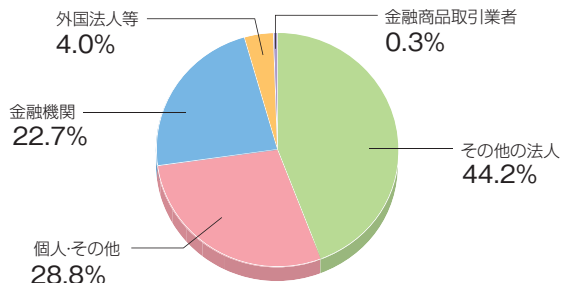
●株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

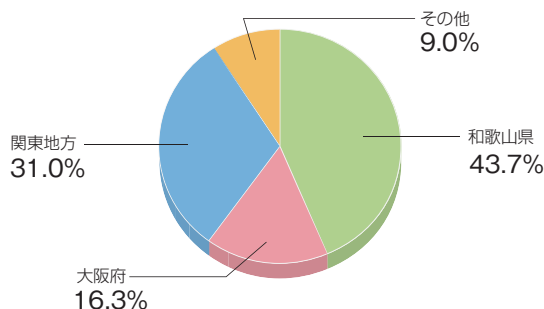
●株式事務取扱場所

〈事務取扱場所〉
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部
電話 0120-094-777(通話無料)

●所有者別株式分布(平成21年9月末)



●地域別株式分布状況(平成21年9月末)



単元未満株式をお持ちの皆さまへ

1単元(1,000株)未満の株式を保有されている株主さまは、保有株式の買い取り請求または単元株への買い増し請求をしていただくことができます。

詳細につきましては、左記〈事務取扱場所〉までお問い合わせください。

(追記) なお、お手続きに必要な書類等については、当社ホームページより左記株式事務取扱場所のホームページにお入りいただき、検索することもできます。

〔紀陽フィナンシャルグループ HP <http://www.kyfg.com/>〕

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、見通しと異なる可能性があることにご留意ください。



株式会社 紀陽ホールディングス

和歌山市本町1丁目35番地

<http://www.kyfg.com/>

株式会社 紀陽銀行

和歌山市本町1丁目35番地

<http://www.kiyobank.co.jp/>

平成21年12月発行

株式会社 紀陽ホールディングス グループ企画部 広報グループ

〒640-8656 和歌山市本町1丁目35番地 TEL.073-426-7133